

ヘルスメーター

C型肝炎

C型肝炎は、C型肝炎ウイルスの感染により起こる病気です。現在日本では90～130万人がC型肝炎ウイルスに感染しているとされています。感染を起こすと、慢性肝炎から肝硬変、肝臓がんへと進行します。

C型肝炎の治療

C型肝炎に対する抗ウイルス療法(ウイルスの排除を目指す治療)はこの10年で飛躍的に進歩しました。以前はインターフェロンの注射による治療が行われており、副作用も強かったため、治療の対象が限られていました。しかし、現在は内服薬による治療が開発され、治療期間は条件によりますが8～12週間で、ウイルスが排除される割合も95%以上となっています。そして、治療を行うことで肝臓がんのリスクが減少します(ただし、絶対に肝臓がんにならないということではないのでその点は注意が必要です)。そのため、C型肝炎と診断された場合には、全員が抗ウイルス療法を検討する対象となります。肝機能が悪すぎて治療に耐えられないと考えられる場合や他の病気の影響で治療ができない場合を除いて基本的に治療をおすすめしています。

治療を行う場合には東京都の医療費助成制度があり、この制度を利用することで、治療費用を抑えることができます。

肝炎ウイルス検診を受けましょう

C型肝炎ウイルスに感染しているかは血液検査で診断できますので、ぜひ一度、肝炎ウイルス検診を受けていただくようお願いします。感染の疑いがある場合には、更に詳しい検査が必要ですので、かかりつけの先生あるいは専門医にご相談ください。